

平成26年度全国学力・学習状況調査について、結果概要がまとまりましたのでお知らせいたします。

【調査の概要】

- 調査実施日 平成26年4月22日（火）
- 調査の目的
 - ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - ◇学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 - ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- 調査内容
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - 主として「知識」に関する問題（A）、主として「活用」に関する問題（B）
 - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 児童生徒に対する調査、学校に対する調査
- 調査参加者 小学校10校の6年生724人、中学校5校の3年生721人

【調査結果の概要】

- 平均正答率は、小中学校すべての教科・区分において全国平均を下回り、中学校国語Aを除くすべての教科・区分において、昨年より全国平均との差が広がる結果となった。特にB区分については、すべての教科で対全国平均比が0.9を下回り、課題が大きい。
- 小学校の観点別正答率は、特に国語A・Bの「書く能力」、算数Bの「数量や図形についての技能」において全国平均との差が大きい。
- 中学校の観点別正答率は、国語Bの「書く能力」、数学Bの「数学的な見方や考え方」において全国平均との差が大きい。

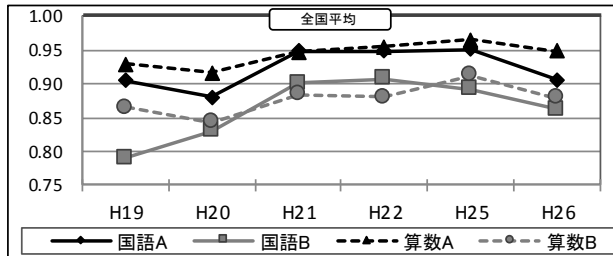
各学校においても、学校ごとの調査結果の分析をもとに学力向上の取組の効果検証を行い、今後の取組へ反映するとともに、分析結果等について、保護者等へお知らせすることとしています。
 教育委員会としましては、①基礎・基本の徹底、②活用力を育む授業改善、③授業規律の確立、④家庭学習習慣の定着の観点を柱に、今後とも各学校の取組を支援してまいります。

小学校

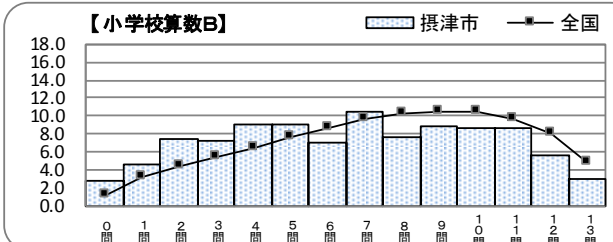
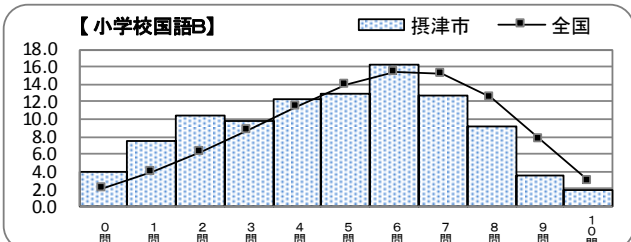
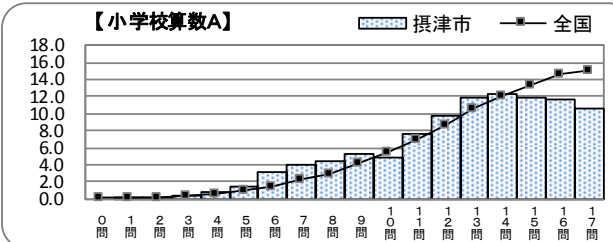
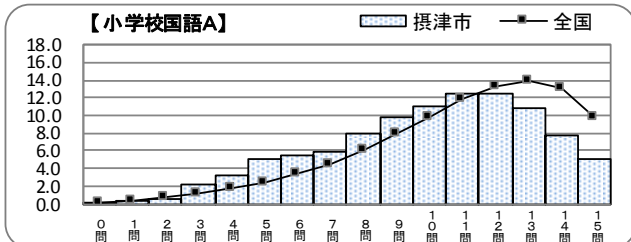
平均正答率・全国平均比経年比較

※対全国平均比は、全国平均の数値を1としたときの摂津市の値を表します。

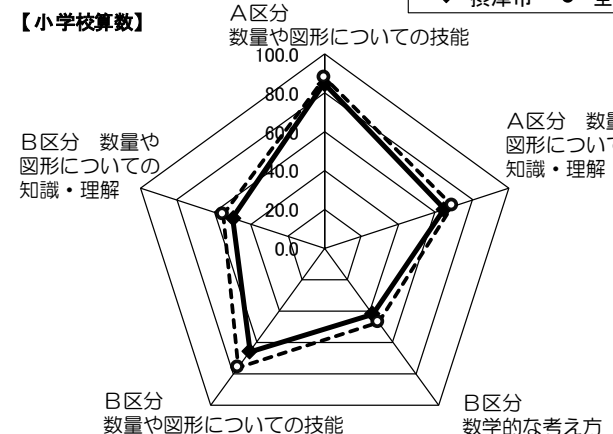
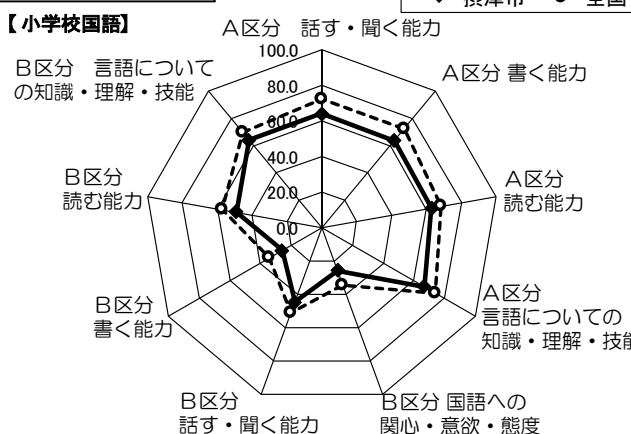
	平成26年度			
	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2
大阪府	70.7	52.6	77.3	56.3
摂津市	66.1	47.9	74.1	51.2



正答数分布



観点別正答率

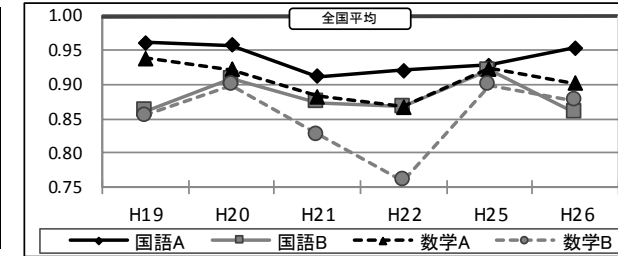


中学校

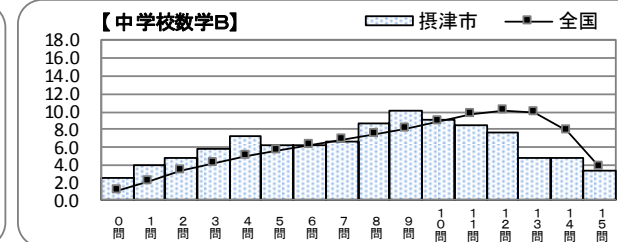
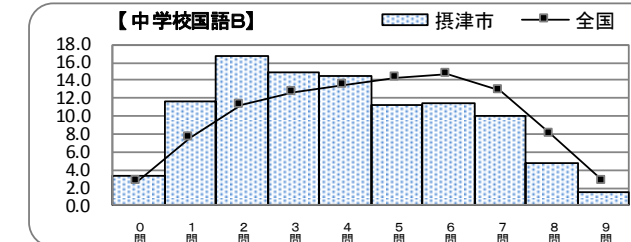
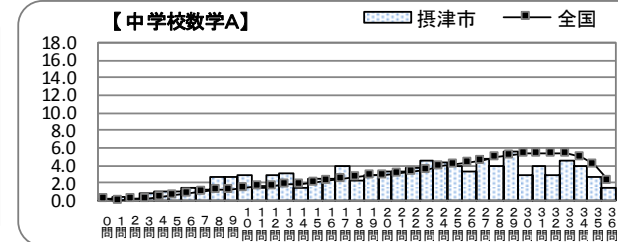
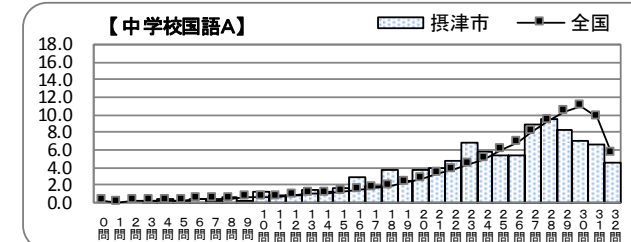
平均正答率・全国平均比経年比較

※対全国平均比は、全国平均の数値を1としたときの摂津市の値を表します。

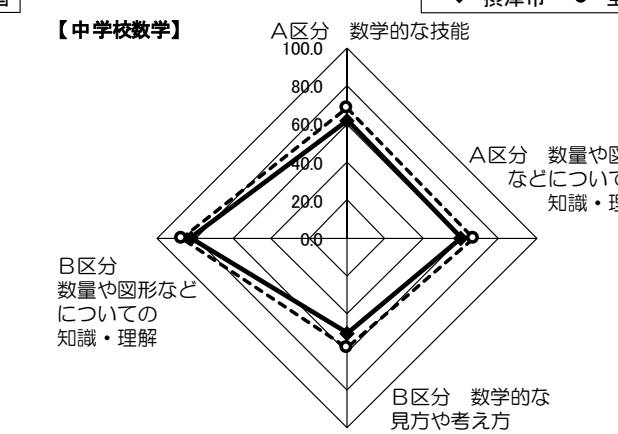
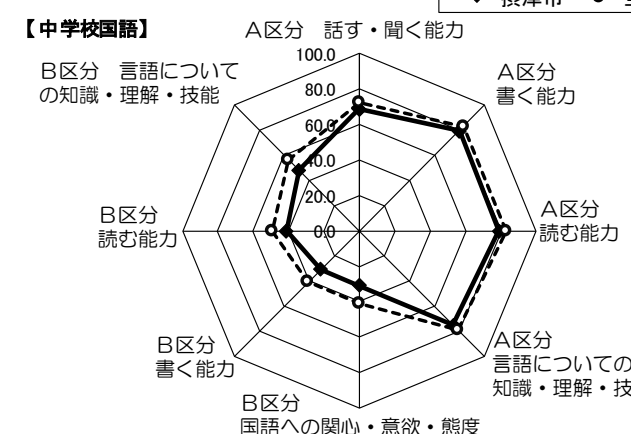
	平成26年度			
	国語A	国語B	数学A	数学B
全国	79.4	51.0	67.4	59.8
大阪府	77.0	47.2	65.0	56.9
摂津市	75.7	43.8	60.8	52.4



正答数分布

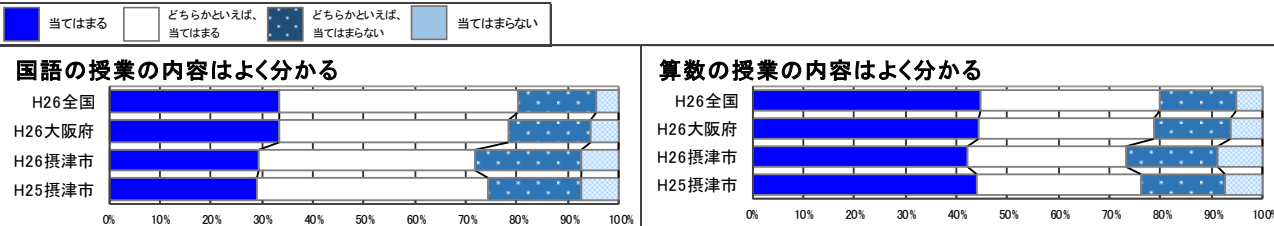


観点別正答率

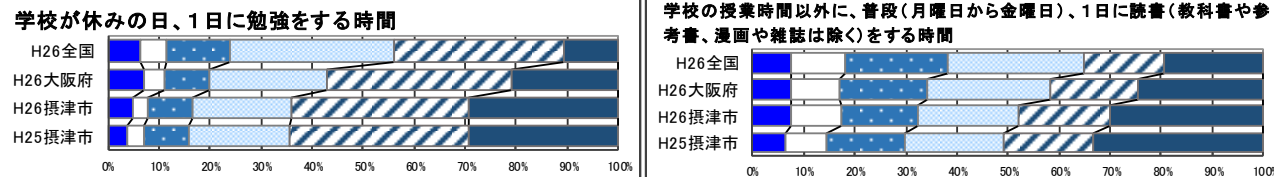
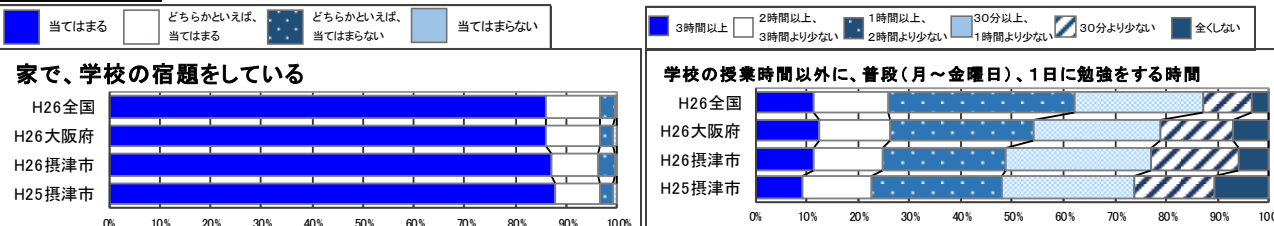


小学校質問紙

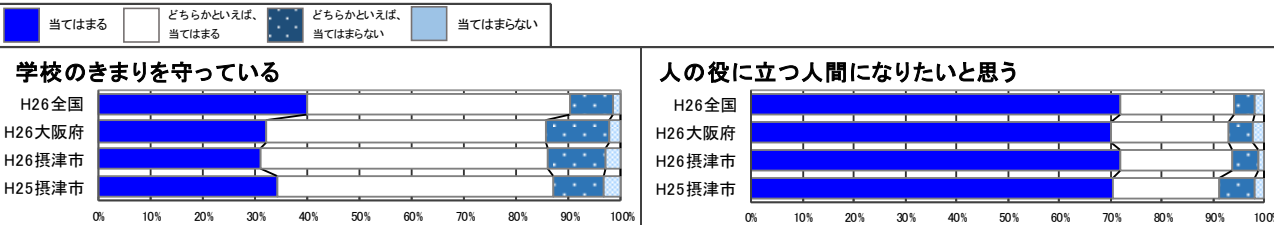
学習に対する関心・意欲・態度 授業の内容がよく分かる児童の割合が国語、算数ともに昨年を下回っている



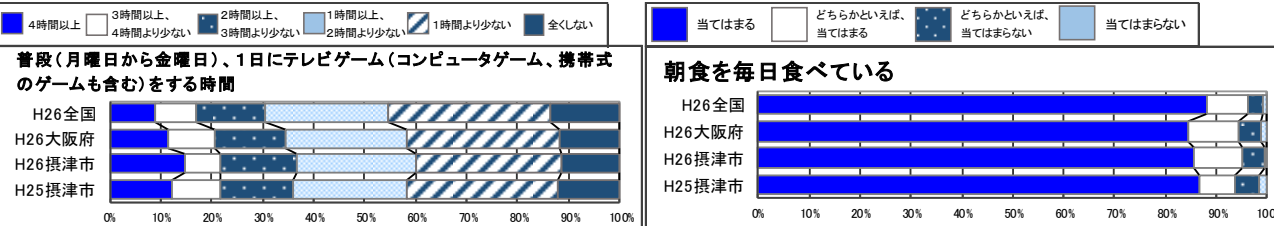
学習時間等 家庭学習時間30分以下の児童は全国平均、大阪府平均より多い



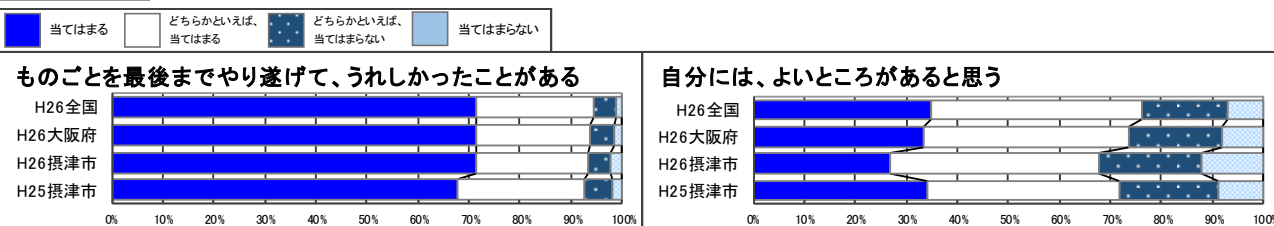
規範意識 学校のきまりを守る児童は昨年より減少



基本的な生活習慣 1日あたり2時間以上ゲームをする児童は昨年より増加

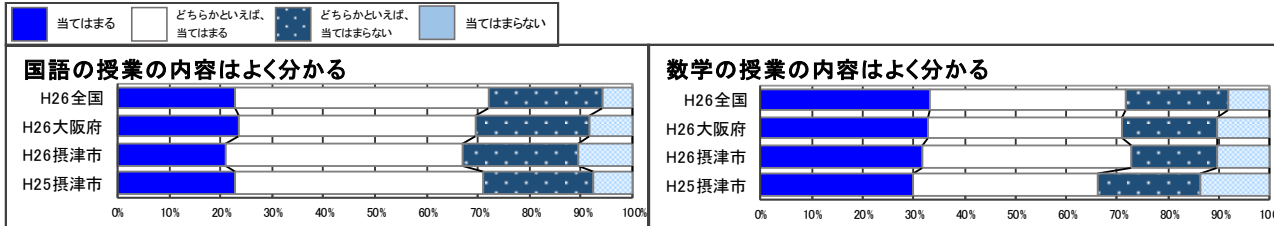


自尊意識 自己肯定感の低い児童が昨年より増加

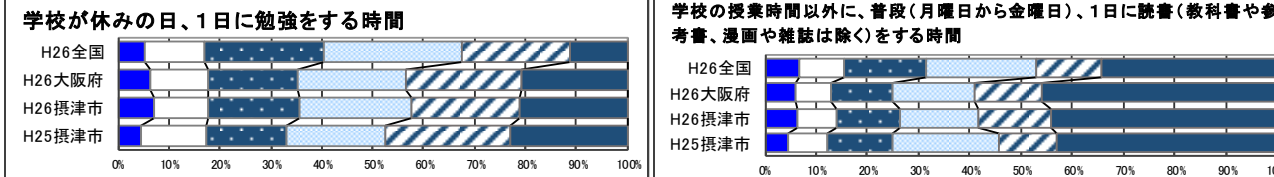
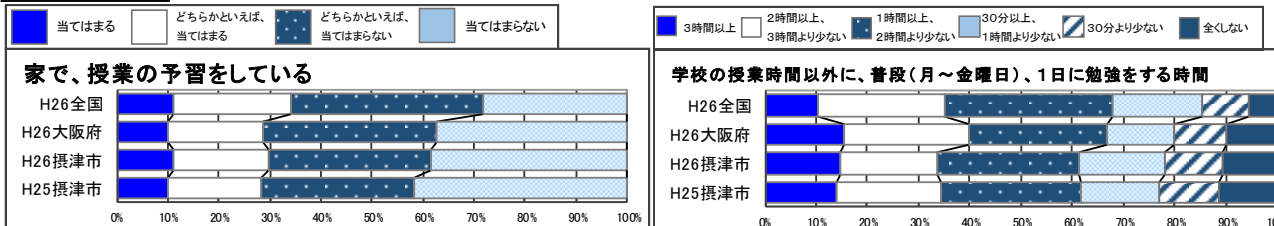


中学校質問紙

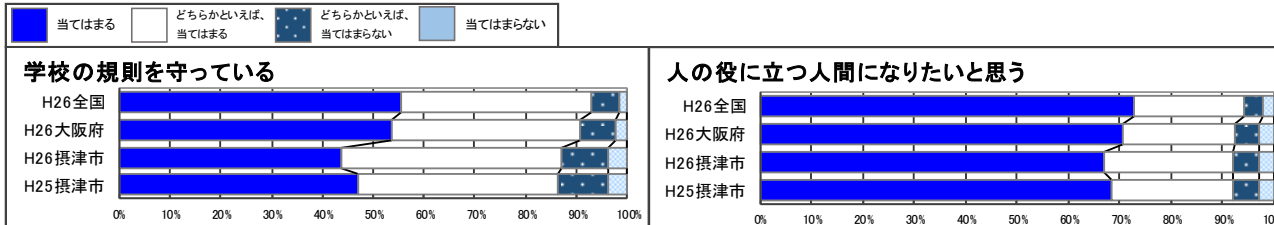
学習に対する関心・意欲・態度 授業の内容が分かる生徒について、数学は改善傾向



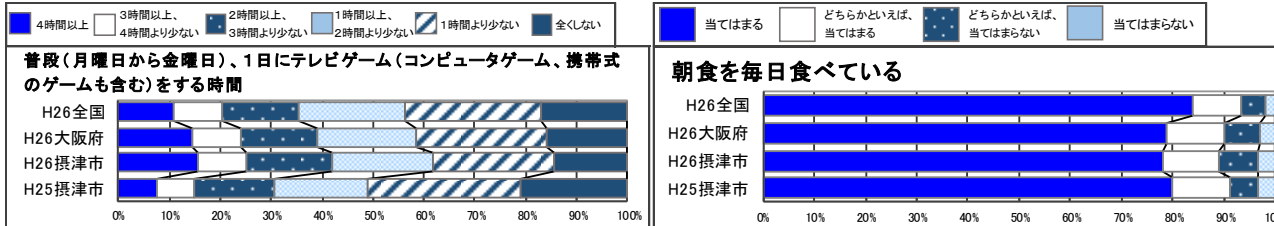
学習時間等 授業の予習をする生徒は昨年より増加



規範意識 人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は昨年より増加



基本的な生活習慣 1日あたり2時間以上ゲームをする生徒は昨年より増加



自尊意識 自己肯定感の低い生徒は昨年より減少

